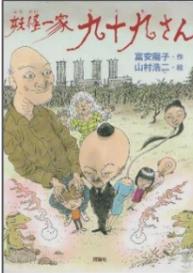


としょかんがすすめる夏休みの本（3・4年向き）

『妖怪一家 九十九さん』
富安陽子／作
理論社（913ト・ヨ）



化野原団地のB棟・地下12階で、人間にまぎってこっそりくらしている妖怪の九十九さん一家。いちばんだいじなルールは「ご近所さんを食べないこと」。九十九さん一家の、ちょっとこわくて、ゆかいな生活をのぞいてみませんか。シリーズもあります。

『くまのパティントン』
マイケル・ポンド／作
松岡享子／訳 福音館書店（933パ）



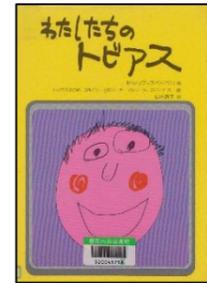
ペルーからロンドンにやってきたくまのパティントンは、ひょんなことからブラウンさんの一家とくらすことになりました。かしこくて、礼儀正しいけれど、ちょっとおっちょこちょいなパティントン。クリームとジャムでベトベトになったり、お風呂でおぼれたり、駅のエスカレーターをとめちゃったり、すぐに困った事件をおこします。

『ねこの小児科医ローベルト』
木地雅映子／作 偕成社（913キ・ネ）



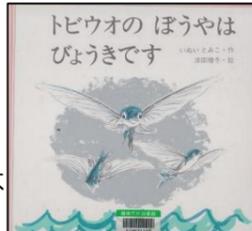
真夜中に 弟のユウクんの調子が悪くなって家族みんなでおおあわて。夜にやっているお医者さんをなんとかさがして、電話をかけたらすぐに来てくれることになりました。ところが、やってきたのは、白衣を着た大きな白黒のねこでした…。

『わたしたちのトビアス』
セシリアニスバドベリ／編
ヨルゲン／文・絵 山内清子／訳
偕成社（Eワ・378ワ）



障がいを持つ男の子トビアスの、兄弟たちが、見たこと、感じたこと、考えたことをありのままにかいた絵本です。

『トビウオのぼうやはびょうきです』
いぬいとみこ／作 津田櫓冬／絵
金の星社（Eツ・ト）



1954年3月1日、太平洋で一発の火の玉が爆発しました。空からふってきた白い灰をあびたトビウオのぼうやは、病気になってしまいました。

『くしゃみくしゃみ天のめぐみ』
松岡享子／作
福音館書店（913マ・ク）



がまんしていても自然に出てきちゃう、くしゃみ、あくび、いびき、おなら、しゃっくりをテーマにしたゆかいなお話が5つはっています。

『百まいのドレス』
エレナー・エステイス／作
石井桃子／訳
岩波書店（933エ・ヒ）



百まいのドレスを持っているといいはるワンダ。人気者のペギーがそれをうそだとワンダをからかいます。ペギーの友だちのマデラインは、よくないことだと思いつつも、なにも言えずに見ていました…。

『てがみはすてきなおりもの』
スギヤマカナヨ／著 講談社（816テ）



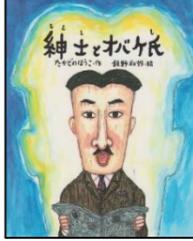
本物の葉っぱや貝がらに書いた手紙がとどいたらうれしくなりません。ちょっとびっくりで、すてきな手紙のアイデアを教えてくれる本。手作りカードを作ったり、切手の貼りかたを工夫するのも楽しいですね。メールもいいけれど、たまには心をこめて手紙をかいてみませんか？

『秘密基地のつくりかた教えます』
那須正幹／作 ポプラ社（913ナ・ヒ）



4年生の森田保は、すて猫をひろったことから、となりのクラスの倉橋省吾となかよくなりました。ふたりは、夏休みに、カブトムシがいっぱいとれるクヌギ林に秘密基地を作ることにしました。子どもたちだけで、そこに泊まる計画をたてるけれど…？

『紳士とオバケ氏』
たかどのほうこ／作
フレーベル館（913タ・シ）



大きな町のまんなかの古い一軒家に、マジノ・マジヒコ氏という、それはそれはまじめな紳士がひとり住んでいました。毎日同じ時間におきて、同じ時間にねむります。でもある日、ちょっとしたまちがいで真夜中に目を覚ましたら、居間に自分にそっくりなオバケ氏がすわっていたのです…！

『ふしぎな500のぼうし』
ドクター＝スース／さく・え
わたなべしげお／やく
偕成社（Eド・フ）



バーソロミューは先祖から伝わるお気に入りのぼうしをかぶって町へ行きました。そこで王様の行列に出会いぼうしをとりますが、ふしぎなことにまた同じぼうしが頭にのっています。とってもとっても出てくるぼうし。怒った王さまはバーソロミューを城へつれていき何とかしてぼうしをぬがせようとはしますが…。

『昆虫の体重測定』
吉谷昭憲／文・絵（486コ）



テントウムシや小さな昆虫の体重はどれくらいだと思いますか？ テントウムシ1匹はだいたい切手1枚分の重さ、やぶ蚊は714匹あわせてやっと1円玉と同じ重さなのだそう。「電子天びん」というとくべつなはかりで、いろいろな昆虫の体重を調べてみた本です。

『かおるのたからもの』
征矢清／著
あかね書房（913ソ・カ）



杉田くんからかりた本に、弟のたけしがらくがきをしてしまいました。らくがきは消えないし、同じ本は本屋さんにもありません。お父さんにたのんでなんとか手に入れた本を返そうとしますが、杉田くんは「こんなものいらない」と怒ってしまいました…。

『夜空をみあげよう』
よぞら
松村由利子／文
ジョン・シェリー／絵
福音館書店（Eシ・ヨ）



夕方、いちばん星を見つけたのはか。毎晩夜空をみているうちに、星の色や月の満ち欠け、国際宇宙ステーション、流れ星など次々と興味がいきました。あなたも夜空をみあげてみませんか？

『車のいろは空のいろ』
あまんきみこ／作
ポプラ社（913ア・ク）



松井さんが運転する空いろのタクシーには、いつもふしぎなお客さんがのってきます。8つの短いお話が入っています。

『タンタンの冒険旅行 黒い島のひみつ』
エルジェ／作 川口恵子／訳
福音館書店（Eエ・タ）



少年記者のタンタンと相棒の犬のスノーウィが世界中を冒険するシリーズ。散歩のとき不時着した飛行機を見つけ、修理を手伝おうとすると…。冒険の途中でなぜかかならず事件にまきこまれてしまうふたりですが、知恵と勇気で乗り越えます。シリーズではアメリカ、チベット、月にも旅行にでかけます！